

長泉わくわく塾・伊豆八十八札所巡礼報告書

報告者 後藤隆徳

年月日 2013年1月17日(晴) 回数 2011年=20回、2012年=9回

巡礼寺 大聖寺～安楽寺

寺説明 八十五番札所 大聖寺(だいしょうじ)

本尊 不動明王 山号 授宝山 臨済宗

草創・1321(後醍醐天皇時代) *本尊・不動明王像は、聖徳太師の作です。

- ・僧、泰庵が、真言宗の寺として創立する、1539(天文八年)大聖寺と名付け臨済宗に改宗する。

八十六番札所 安楽寺(あんらくじ)

本尊・釈迦如来 山号 吉祥山 曹洞宗(最勝院・末寺) 草創・不 明

・663(天智天皇時代)行基が、当地に来て自から彫り上げた、如来像を祭祀したのが始まりです

・その後山崩れで再興不能になり、荒廃が続きました 1534(天文三年)最勝院の僧・精賢が寺を整え安楽寺と改称、曹洞集に改宗した。

- ・樹齡千年を越える、大楠の木。

距離 黄金崎入口～安楽寺～土肥地先=約1.5Km

タイム 下土狩6:30-土肥-大聖寺8:30~9:00-バス-黄金崎入口発9:15-達磨寺10:15~55-富士見観音-土肥・松原公園(昼食・休憩)12:00~13:00-安楽寺13:10~35-土肥地先14:20-湯の国会館

温泉 湯の国会館(団体割引=720-)

寺説明 ●八十五番札所・大聖寺(だいしょうじ)

本尊・不動明王 山号・授宝山 宗派・臨済宗 草創・1321年(後醍醐天皇時代)

- ・本尊・不動明王は聖徳太師作といわれている
- ・僧、泰庵が真言宗の寺として創立する。1539年(天文8年)大聖寺の名付け臨済宗に改宗した。

前回、快調に歩き黄金崎入口まで行った。大聖寺前を通過したが、時間が半端だったのでパスした。従って今回、最初にバスで向かった。

2年前入院中だった住職は健在だった。まずは長い階段を上って本堂でお勤

め。この寺のご本尊は不動明王。ご本尊真言は長いが慣れた。危なっかしい階段を下ると住職が待っていた。早朝だったが「お酒臭かった」。ま、ここは日当たりが悪く寒いからいいか。奥さまも健在だったが、いかんせん高齢ゆえ、我々が来るということで、檀家の方が応援に来てくれていた。



住職は今年88歳になったという。話を始めたが酒もあって、最初はフガフガでハッキリしなかった。余り人と話さないで「日本語を忘れた」と冗談を言っていた。

しかし、次第に調子が上がり、最終的にはマアマアだった。ともかく、次の2年後もお元気であることを願わずにいられなかった。バスで黄金崎に戻って巡礼開始。

すぐ宇久須の町に差しかかる。実は今日のお昼は楽しみがあった。宇久須「三共食堂」の「こあじ鮓」を頼んだのだ。小は1200-+消費税。この地には「八起」(やおき)のものもあるが、以前両方を比べたら、三共食堂のものが



八起のもの



三共食堂のもの

断然美味しかった。ただ、20数個頼んだのに一銭もまけてくれなかったのは何故?? (笑)

お昼を楽しみに巡礼。ここから「達磨寺」(巡礼外)まで緩い上りがかなり続く苦しい所。これを越えれば土肥まで下りだから楽になる。寺は本堂参拝に500円掛る。うへ〜!! 4年前は入場したが、般若心経で描いた大きな達磨図、住職の法話があり、それなりに良かった。ただ今回は誰も入らなかった。

・・・4年前団体で入場し、真っ赤な法衣の住職に「般若心経」を読経して貰った。ただ、住職のお経は早く、ちょっと着いていけなかった。

本堂正面には、高さ5m・重さ3tの巨大なブロンズ製の「達磨大師」が鎮座する。その眼光は鋭く、やましい人間の心を見透かしている様だ。製作者は、長泉町在住の堤 直美氏。これも何かの縁だろう。

右手には、「般若心経」23万7千字で描いたという、大きな「達磨絵」があった。これは信者が寄進したもののだが、よくぞここまで描いたという、見事なものだった。髭の黒い部分も文字で描かれている・・・

(2009年2月巡礼報告より)

ここから土肥までは下り坂・追い風で距離の割に案外楽だった。小下田の大守院で「富士見観音」を見学。龍泉寺前を通過し丸山城址公園着。2年前、ここには河津桜より1ヶ月早く咲く「土肥桜」が開花していた。

ここから土肥・松原公園まで足を伸ばし昼食・休憩。ドリーム観光・Gドライバーに頼んで鮎を受け取りに行って貰った。公園はちょっと風が冷たかったが我慢出来ない程ではなかった。

鮎はやっぱり美味しかった。アジが絶妙だった。ただ、1200-の小はちょっと量が少ない感じだった。



丸山公園の
土肥桜
(2010年)



鉾湯（まぶゆ）



公園ではカワサキのバイクの撮影をやっていた。聞けばこの時期、天気が良く雪がない伊豆にわざわざトラックにバイクを積んでくるそうだ。

昼食後、安楽寺に向かう。入り口には大きな楠がある。予定外の訪寺だったが、気持ち良く受け入れてくれた。

お勤め後、境内裏にある「鉾湯（まぶゆ）」に潜る。慶長時代、金鉾を掘ったらお湯が出たらしい。入り口には湯舟があり、湯加減は良かった。最奥には観音様が祀ってあった。湿気が凄く眼鏡の方は、曇ってしまった。

この後、時間があつたので少し先まで歩いて終了。2011期の方は残すところ数回。いよいよ大詰だ。



土肥
八十六番札所
安楽寺